



ロータリーに輝きを

**FUJIEDA ROTARY CLUB**

## 藤枝ロータリークラブ会報

例会：毎週水曜日 小杉苑 藤枝市青木2-35-30 TEL 054-641-3321  
 事務局：藤枝市青木1-11-10 TEL 054-647-2300 FAX 054-647-2040  
 URL <http://www.fujieda-rotary.org/> E-mail [club1972@fujieda-rotary.org](mailto:club1972@fujieda-rotary.org)

会長：池ノ谷 敏正 副会長：森下 敏顯 幹事：鈴木 舜光 副幹事：大長 昭子

第2080回

- ソング 四つのテスト
- ソングリーダー 大石 英典君



【富士山】

写真提供：櫻井 龍太君

### 会長報告

池ノ谷 敏正君

皆さん、お元気そうですねによりです。

去る2月20日、藤枝四川飯店において開催されました「静岡産業大学、冠講座交流会」へ鈴木幹事と平奉仕プロジェクト委員長とともに出席してまいりましたので、ご報告させていただきます。



静岡産業大学からは三枝学長をはじめ冠講座にかかわっておられる先生方が、そして「藤枝市」「静岡市」「電通」「TOKAI」といった冠講座を提供している団体の代表者が参加しての本交流会は、懇親を中心に和気あいあいとした雰囲気の中で行われました。

学長挨拶の他、各団体の自己紹介のようなスピーチの時間も設けられており、他団体がどのような講座を行っているのか、担当者がどのような気持ちで登壇しているかなどのお話を、短時間ではありましたが聞くこともできました。

他団体の全ては、全12回ある講座を一つのテーマで行っているようでしたが、毎回テーマの異なる講座を開催している我がクラブは、他の団体のそれとは一線を画したものであり、ある意味貴重な講座でもあったと感じました。

ともあれ、学生にとっては社会というものを、学校に居ながらにして垣間見れる窓のような役割を担うこの講座は、とても意味のあるものであると再確認した次第です。

本年度も4月から冠講座がスタートする予定ですが、学生のため、そして自分のために頑張ってやり抜きたいと思いました。

会員の皆様にも講師の依頼があるかと思えます。

依頼を受けました会員の方は、是非、前向きに対応をお願いいたします。

### 幹事報告

大長 昭子君

- ・第2620地区より  
3月のロータリーレート「1ドル=118円」です。  
(参考) 2月ロータリーレート：118円
- ・藤枝明誠高校より  
全国大会出場ご支援の御礼のお便りが届いております。

### 出席報告

松葉 義之君

本日のホームクラブ出席者	前回の補正出席者
30/42 71.42%	32/42 76.19%

(1)欠席者(事前連絡とメイクアップをどうぞ)

- 河井君 ○栗原君 ○鈴木舜君 ○竹田君
- 間野君 池谷君 江崎晴君 大杉君 落合君
- 玉木君 仲田晃君 渡辺君

(2)メイクアップ者

- 大塚 博巳君(焼津) 松田 真彦君(焼津)
- 鈴木 透君(静岡日本平) 島村 武慶君(静岡日本平)
- 松葉 義之君(静岡北)

### ポリオプラス寄付金

ポリオ撲滅活動へのご協力有難うございます。

本日寄付金額 4,354円

寄付金累計額 102,482円

八木 洋行様



『伝説・物言う魚』

SBSラジオ「すっとんしずおか昔話」は、この2月22日の放送で、1321回目を数えました。「トンビとカラス」という話でした。この番組は、静岡県内に伝わる昔話・伝説を基に、ラジオドラマにして放送しているものですが、27年目に入りました。台本と解説を担当しております。ながくやっていて、気が付いたことですが、河童や天狗のような全国に普遍的に語られている妖怪と静岡県だけで語られている妖怪がいることに気が付きました。その一つが島田市と藤枝市の平野部で語られる妖怪「青麦小僧」です。

・・家に帰り遅れた子供が、麦畑を走っていると、畑から青麦小僧が現れ、子供をさらうのです。だから、麦が青いうちは子供を畑に出すではないというのです。この話は、麦の孕む時期に、麦畑に入るものではない。という戒めと考えられています。しかし、どうして、麦畑の妖怪がこの地方だけなのかは説明が出来ません。

東海道に沿って、さまざまな人を化かすキツネが登場しますが、藤枝では、瀬戸川の川越し人足を束ねた川庄屋に伝わる「キツネ膏薬」の伝説のキツネもその代表です。

「カミソリ狐」という人を化かす狐もそうです。このカミソリ狐はどうも静岡と浜松だけに語り継がれる妖怪のようです。

話は、人が狐に頭の髪を剃られてしまうのです。清水の追分に伝わる話は・・こうです。

・・追分の一本松にカミソリ狐がいました。この追分村の庄屋は、カミソリ狐に化かされるのは、間抜け者だからと豪語していました。そんなある日、徳川家光の使いの者がやってきて、「この度、将軍が内々に久能山東照宮に参詣に参る。で、そのとき、草薙にある家康の鷹狩場で、鷹狩を行うのだが、これは内々の事、御仮屋を庄屋の敷地内に建てるよう」・・と、いうことで、これは名誉なこととさっそく庄屋は茶室の付けた離れを屋敷の中に建てました。そして、その日がやって来ました。将軍の行列がやって来ました。庄

屋は妻と共に出迎えました。将軍の乗るお籠の後には、鷹を手にする鷹庄もいました。と、そのときです、庄屋の犬が急に吠えたてたのです。すると鷹庄の手にとまっていた鷹が驚いて、逃げてしまったのです。将軍が一番のお気に入りの鷹です。これには将軍家光は怒り心頭にきました。「無礼者、打ち首じゃー」

庄屋もその妻も、震えるばかりです。そこへ、天海僧正がやって来て、「この者たち、わたしにお預け下さらんか。権現様に参詣するのに、この者たちの血で汚すのもどうでしょう。いまここで、剃髪させ、今後は仏に使えさせますが・・どうでしょう」「うん、天海に任せる」ということで、「その方たち、よいか、いまここで髪を剃り、仏門に入るのじゃ。でないと、打ち首・・どうする」「はいはい、すぐに剃髪して仏門へ・・」「そうか、では・・」というので、ゾリゾリ庄屋夫婦の髪を剃り落としてしまったのです。それを見て、将軍の行列も天海僧正も行ってしまったのです。残された庄屋夫婦は、頭を剃られて泣くばかりでした。

・・と、まあ、こんな話ですが、この話の他に四話あるのですが、そのうち三話は徳川の将軍と関わる展開になります。徳川の将軍と関わることで、その権威に平伏させておき、そこへ高僧を登場させて、剃髪されてしまうという展開は同じなのですが、これは、おそらく、静岡は駿府城、浜松も家康の居城だったから、こういう話もなっとく・・と、いう歴史風土があるからと考えられる訳です。

最期に、「物言う魚」と分類される話があるのですが、この話は、大井川流域と天竜川流域に点在しています。

その一つ、本川根町は千頭につたわる話ですが、・・ある釣り好きな男が、大井川に釣りに出かけ、ヤマメを釣っていると子供が現れ、「この奥にある淵では釣りはしない方がいいよ。おじさん・・」と言って、足を掴むので、しょうがないので、そこで、弁当にした。そして、その子供に、オムスビをやった。子供は旨そうに食べたら、「おじさん、おねがだから、この奥の淵で釣りはしない方がいいからね」と言って上流に消えた。おかしいなと思いつつも、その奥の淵へ来ると、そこは深い淵で、見るからに大物がいそうな雰囲気だった。さっそく釣り始めると、大物が釣れた。大喜びで、家に帰り、その大物の腹を割く

と、昼間子供にやったムスビが出てきた。男は驚いて、以来、釣りを辞めてしまった。

この話は、山間部では貴重なタンパク源だったヤマメという溪流魚の魚種の保存のために、禁漁区とヌシを釣ってはならぬという戒めをこういう伝説で伝えようとしていることが一つ。それと、腹から出てきたムスビを考えると、ここには、魚に飯を詰める「馴れずし」という料理があるのですが、そのことを示唆します。大井川の上流の井川は田代の諏訪神社のお祭に供える神饌の中に、ヤマメの腹に粟の塩粥を詰めるものがあります。粟の塩粥を詰めて4日ほどしか置かないで供えるので塩辛いのですが、これを半年以上漬けておけば、立派なヤマメの馴れずしに成るはずです。おそらくそういう食文化がこの流域にはあったと思われるのです。

昔話・伝説も、故郷の固有の文化を語る・・・文化資産の一つなのではないでしょうか。

## ★ 退職挨拶

奥脇 美貴さん



2011年2月から、藤枝南ロータリークラブの若林先生のご紹介で勤めることとなりました。若林先生からは、電話番と簡単な事務とお伺いしていましたが、実際に働き始めると、多岐にわたる仕事内容で大変でした。仕事に慣れるまで苦労しましたが、大変勉強になりました。また、例会での卓話は興味深いためになるお話ばかりで、よい経験となりました。大変お世話になりました。ありがとうございました。



(担当／大石君)